

「義と利の思想」



湯島聖堂の孔子像

義と利については、古くから儒教や仏教より伝えられてきた。

安岡正篤氏によると、『正誼明道』という原則があるという。つまり、「君子はその誼義を正してその利を謀らず。その道を明らかにして其の功を謀らず」である。つまり、「道義を中心建前にすれば、功利は自らその中に入る。

功利を中心に建前にすれば、道義は逃げていってしまう」「利は義から出る」というわけである。

論語や大学や孟子を再確認したい。

論語

孔子が論語の中で「利と義」、または「富と道徳」について語った言葉としては次の例がある。

・「利に放りて行へば、怨み多し」

自分の利益本位で物事を行っていくと、人の怨みをかうことが多い。

・「得ることを見ては義を思う」

利得を眼前に見て、それを得ることが正しい道筋にかなっているかどうかに思いを致す。

大学

・「徳は本なり。財は末なり。本を外にし、末を内にすれば、民を争わしめて奪を」

・「財を生ずるに大道あり」

つまり、道徳を先とし内とし、財利を後とする。必ずしも利益を口にする必要はなく、いかにして仁義を実行するかという問題だけである。

孟子

・荀にも義を後にして利を先にするを為せば、奪わずんばあかず

孟子もまた、『孟子』巻第一巻の冒頭で、「大学」と同じような事を述べている。つまり、仁義にもとづかないで利益のみを目的として万事を処していくこととなれば、他人のものを奪い取らなければ満足しないようになり、とんでもないことになる」と述べた。いわゆる「先義後利」の思想を述べているのである。

今こそこうした東洋思想をバックボーンにして、決断と行動をすることを推進したい。